耳鼻咽喉科における内視鏡の洗浄・消毒方法の検討

竹 井　　慎　　　小 上 真 史
荒 井　　潤　　　藤 原 啓 次　　　山 中　　昇
和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科

近年，耳鼻咽喉科領域でも他の診療科と同様に，内視鏡を用いた検査・診断・治療が盛んに行われる状況となっている．一方で，消化器内視鏡や気管支内視鏡を介した感染事故が散見されており，耳鼻咽喉科で使用する内視鏡についても，洗浄・消毒を確実かつ迅速に行なうためのガイドラインの策定も含め，より高いレベルでの感染予防対策の確立が望まれている．そこで耳鼻咽喉科で使用する内視鏡の洗浄・消毒方法について，手洗いによる方法（以下，用手消毒法）と内視鏡洗浄消毒器を用いる方法（以下，洗浄器消毒法）で行なった場合の消毒効果と内視鏡を次の患者に使用するまでの洗浄･消毒工程（以下, 再生処理）に要する時間を比較検討した．消毒効果については，洗浄器消毒法では内視鏡全体を消毒薬に浸漬させることができるため，菌の残存は見られず用手消毒法よりも確実な消毒効果を得ることができたが，用手消毒法では内視鏡操作部が完全に消毒薬に浸漬されなかったため，再生処理を行った直後でも菌の残存が認められる場合があった．また，再生処理に要する時間も，洗浄器消毒法では平均12分43秒であったのに対し用手消毒法では平均23分07秒と有意に時間を要した．洗浄器消毒法は消毒効果および作業効率の両面において有用であることが確認された．